

事業の概況

事業の概況

地域との連携

経営と取組み

業務運営

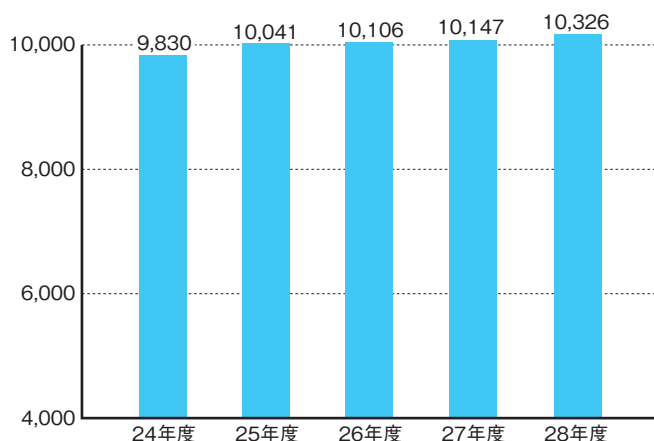
業務のご案内

預金積金の状況

「年金定期預金」や、「真田幸村記念定期預金」など金利のお得な個人のお客さま向け預金を中心に、預金積金の残高は1兆326億円となり、前年度から179億11百万円増加（増加率1.7%）しました。

預金積金残高の推移

(単位:億円)

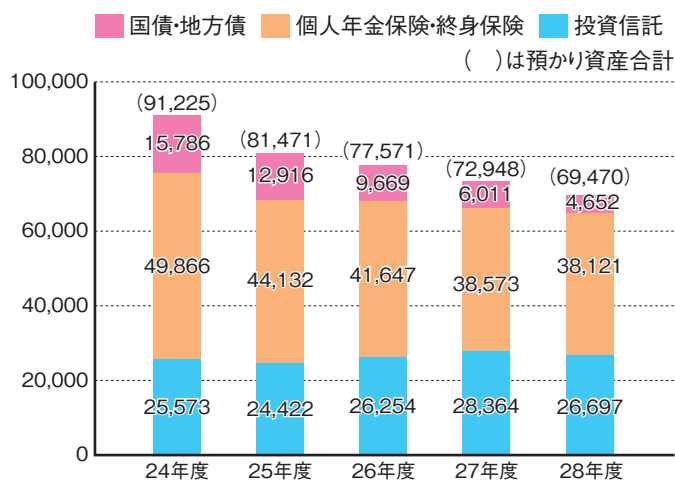


預かり資産の状況

国債・地方債、投資信託、個人年金保険等を合算した預かり資産残高は694億円となりました。金融商品の品揃え充実やマネーアドバイザー（金融商品専門担当者）の育成・配置により、今後もお客さまのニーズに合致した各種金融商品の販売充実に努めます。

預かり資産残高の推移

(単位:百万円)

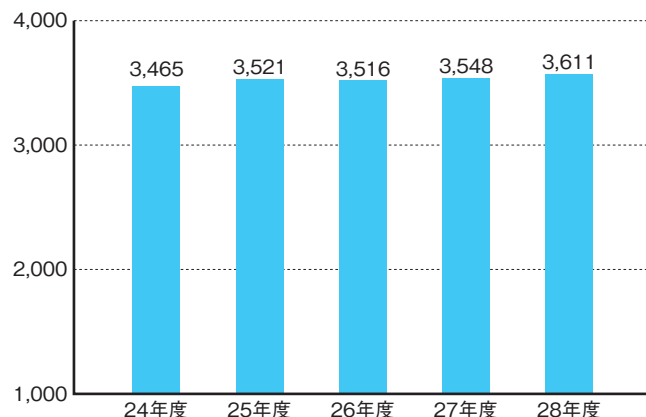


貸出金の状況

事業を営む皆さまへの事業性融資の取組みや、個人のお客さまへの住宅ローン等の販売など、地域のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしてまいりました結果、貸出金の残高は3,611億円となり、前年度から63億17百万円増加（増加率1.7%）しました。

貸出金残高の推移

(単位:億円)

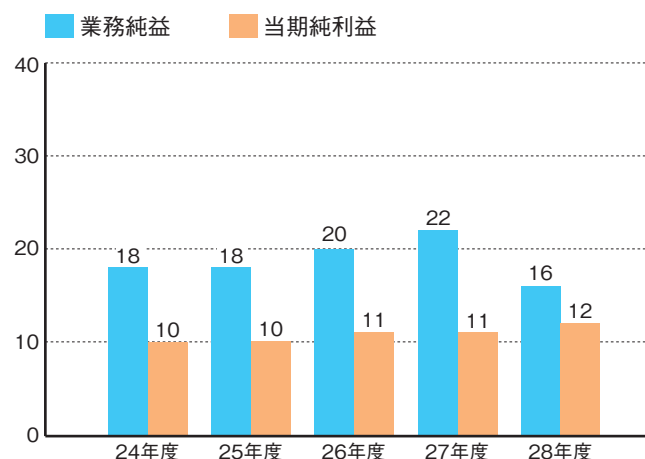


収益の状況

金融機関の本来業務の収益を示す業務純益は前期比5億86百万円減益の16億99百万円を計上し、最終の税引後利益をあらわす当期純利益は51百万円増益の12億27百万円を計上しました。

業務純益と当期純利益の推移

(単位:億円)

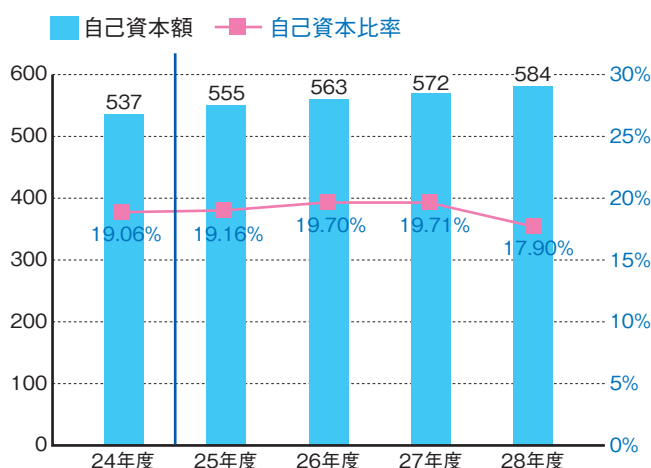


自己資本比率(単体)の状況

安定した利益確保の継続と健全経営の推進により、健全性の指標である自己資本比率は17.90%と高い水準を維持することができました。国内金融機関が健全性の基準とする4%を大きく上回っています。

自己資本比率等の推移

(単位:億円)



(注) 25年度より、新国内基準により自己資本比率を算出しております。

不良債権の状況

金融再生法上の不良債権比率は3.62%、保全率(カバー率)は77.96%となりました。高い保全率に加えて毎期の利益蓄積による特別積立金等が525億円あり、十分な健全性を保っています。

金融再生法開示債権の内訳

(単位:百万円)

金融再生法開示債権と保全率(28年度)

金融再生法上の不良債権①	13,123
●破産更生債権及びこれらに準ずる債権	2,921
●危険債権	8,222
●要管理債権	1,980
うち担保・保証額②	8,295
②のうち優良担保・保証	3,921
うち貸倒引当金繰入額③	1,935
保全率(カバー率)	77.96%
正常債権	349,768
金融再生法開示債権ベースの不良債権比率	3.62%

比率の内訳

